報告

地域医療に関わる 地域別意見交換会（7）

釧路市・留萌市

常任理事・医療政策部長　直江　寿一郎

平成20年度から継続している「地域医療に関わる地域別意見交換会」の通算第10回、第11回を釧路市・留萌市の二ヵ所で開催した。

当会からは長瀬会長をはじめ役員が出向き、「地域医療再生計画」「自治体病院等広域化・連携構想」「緊急臨時的医師派遣事業」「第２回地域医療に関する調査」などについて説明した。

釧路市では、「一次救急医療体制の充実こそ全ての基盤」「距離が離れた釧路・根室圏域をひと括りにして連携・広域化を求めるのは困難」「医師確保に苦労している道東に医育大の誘致を」などの意見が出た。

留萌市では、「第四の医学部より現在の三医育大の定員増を考えた方がよい」「精神科病床が不足、身体合併症の患者の受け入れに苦労」などの意見が出た。

二会場ともに北海道から幹部各３名が傍聴した。

【釧路市】

７月１日（木）午後６時30分から釧路全日空ホテルで開催した。出席者は過去最多の53名であった。

長瀬会長が、「日頃直面している問題を忌憚なくお話しいただき、どうしたらよいかまで話ができればよいと思う」と挨拶。

杉元釧路市医師会長が「今日の発言を道医の今後の活動に生かしてもらいたい」、江村根室市外三郡医師会長は、「北海道一の医療過疎地である立場から発言させていただく」と述べた。

釧路市の模様

当会の三宅副会長と齋藤釧路市医師会副会長が、全道と道東のドクターヘリの事業について説明。

日向釧路市医師会理事（医療政策等検討委員会委員）が座長を務め、釧路市の状況を説明した後、意見交換した。

出席者からは、「NICUの主担当は１名で、他医が補佐しているが、いつこの体制が維持できなくなるか」「現在夜間急病センターは順調に運営されているが、連携病院を含め１～２名抜けても、夜間救急体制は崩壊の危機に陥る」「人工透析のベッドが不足」「入院患者が他医療機関を受診した際の入院基本料減額は厳しい」「若い医師は修練と考え厳しい環境でも２、３年なら我慢できるが、指導医こそ最も危険な状況」などの意見が出された。

【留萌市】

８月５日（木）午後６時から光風館石亭で開催した。出席者は24名であった。

長瀬会長が「地域の先生方がそれぞれの問題にどう対処されているか、各地の状況を伺い、少しでも問題解決の参考になればと思いやってきた」と挨拶。

川上留萌医師会長が「日頃感じていることなどを遠慮なく述べさせていただきたい」と応えた。

子野日旭川市医師会理事（医療政策等検討委員会委員）も同席した。

出席者からは、「看護師不足が著しい。民間病院は苦労している」「どうして医師不足になるのか。日医や厚労省が医師不足の原因を徹底的に調査・分析してほしい」「若者が支持する動画サイトでは日医をけなしているところがある。日医はもっとアグレッシブに主張してもよいのではないか」「医師が、家族を含め定着できる環境整備が必要」などの意見が出された。

また、道立羽幌病院を地域が一体となって支援している状況や、留萌市立病院の再生を願い民間のボランティアが「留萌がんばるかい」を作り、機関紙を発行して応援してくれ、医療関係者の励みになっていることなどが紹介された。

◇

平日の夕方の開催にも関わらず、診療業務をやり繰りされてご出席いただいた役員・会員各位、また、現地に赴いて傍聴された北海道庁の各位に感謝申し上げ、報告を終えさせていただく。

留萌市の模様